⑤ 自然を残す場所として

十勝大橋付近の十勝川。今では周りに住宅地が広がっているが、かつてはほとんどが森や草原、湿地であり、十勝川の流れもたびたび変わった。

開拓が進み、農耕地や住宅地などが開発されていくうちに、平野を広くおおっていた森は消えていきました。

また、曲がりくねっていた川のほとんどが、スムーズな水路に直されていきました。

食べるため、生きるため、暮らしを守るために必要なことでした。

しかし、少しゆとりができてまわりを見回すと、身近にあった林や小川がなくなり、昔はあたりまえにいた生き物も、目にすることができなくなっていました。

洪水になっても水を流せる川も大切ですが、自然が残り、いろいろな生き物たちがいる場所としての川も、求められるようになってきました。

川に林を

林にはある程度の広さが必要です。しかし、平地のほとんどは人が利用しています。「帯広の森」などはありますが、平地に林を増やすのは、なかなかむずかしいことです。

また、林と林がはなれている時、鳥などは飛んでいけますが、地上を歩く動物は遠くまで移動することがなかなかできません。

その点、河川敷はかなりの広さ※1を持ち、しかも、川にそって長くつなげられます。さらに、水面に木の枝葉がかぶさったところは、魚が好む場所です。 （→p222）

川ぞいに林があることは、いろいろな生き物のすみかが増えることになるのです。

（上）十日川下流（池田町）の岸は、ヤナギの枝を使って守られているので、水ぎわにヤナギの木が生えている（※2）。

（右）十勝川の堤防に木の苗を植えているところ。「治水の杜」といって、水害を防ぐ意味がある。

川に変化を

確かに、川がまっすぐに近い方が、洪水を流しやすくなります。 （→p190）

しかし、曲がった川にはいろいろな速さの流れができ、深さにも変化ができます。そうすると、さまざまな魚や虫などがすむようになります。 （→p217）

魚や虫がすめば、それを食べる動物や鳥たちもやって来るかも知れません。

そこで、洪水の時にはよく流れるけれど、ふだんはある程度流れに変化があるように、そして、水辺の豊かな生態系※3がよみがえり、守られるように努めて整備された川もあります。

下頃辺川（浦幌町）では、洪水が流れやすいまっすぐな水路の中に、ふだんは曲がって流れるような水路がつくられた。

※1　河川敷はかなりの広さ（かせんしきはかなりのひろさ）：ただし、公園、畑などに利用されているところもある。

※2　ヤナギの枝（ヤナギのえだ）：ヤナギの小枝は30㎝くらいに切っても、土にうめておくと芽が出て木が育つ。成長が早く、しめったところで育つので、昔から岸を守るために利用されてきた。

川に湿地を

十勝各地にあった湿地は、水はけをよくすることで、大きく減り、農地や住宅地へと変わっていきました。

その分、湿地に育つ植物や動物、鳥などの生き物が急速に減っていきました。（→ｐ216）

そこで、生き物のために、新しく人の手で湿地をつくることができないかと、河川敷などで工夫された場所もあります。

ヤナギタウコギ。湿地に生える草。絶めつの危険性が高い。

（上）堤防づくりに使う土を取ったあとの河川敷にできた湿地。どんな生き物がいるのか調べているところ。

札内川で産卵行動をするサケ。

魚を増やし、産卵場所を増やす

川に少しの変化をつけるだけだと、とくに大きな魚は、なかなか増えません。そんな場合、人の手で卵をかえして子どもの魚を育て、川に放流する必要があります。

サケについては、明治時代のなかばころから漁業のために人工的なふ化・放流が行われてきました。（→ｐ174・ｐ236）

最近、とても少なくなり「幻の魚」といわれるイトウを増やそうと、卵をとり、ふ化させて育てることにチャレンジしている人たちがいます。

また、サケやシシャモが自然の中で卵を産む場所であり、新しい子どもがふ化するための場所である「産卵床」を増やせないか、という取り組みもおこなわれています。

まだまだ問題も多い … 豊かな自然から迷惑をかけられることもある

自然が豊かで、身近にいろいろな生き物がたくさんいることは、いいことだといえるでしょう。

しかし、自然が豊かな川になると、問題も起きてきます。

例えば、川ぞいに木が増えすぎると、洪水が流れにくくなります。今でも、大雨が降れば洪水は起き、洪水がスムーズに流れなければ暮らしの場に水があふれ、水害が起きるのです。また、洪水の時に木が流されると、海で魚をとる網をダメにしてしまうことがあります。

湿地をつくるということは、その周りの水はけが悪くなることにつながるかも知れません。農地や住宅地の水はけが悪くなっては困ります。また、生き物がふえれば、畑の作物をあらす動物も出てきます。

とくに農業や漁業など自然と向かい合う仕事では、自然から大きな迷惑や被害を受ける場合があるのです。

自然を豊かにするときには、そのマイナス面があることを忘れてはいけません。

その上で、どういう方法が問題が少なく、公平な解決法なのかを、いろいろな立場に立って考えなければならないのです。

デントコーン畑でエサを探すマガン。

※3　生態系（せいたいけい）：ある決まったの区域（くいき）にいるいろいろな生き物と生き物、さらにそれを取りまく環境（かんきょう：水・土・温度・日光など）が、つながりまとまっているようす。